

第1回八幡浜市男女共同参画計画検討委員会 議事要録

- 日 時 平成29年1月17日(火) 10時～12時
- 場 所 八幡浜庁舎 5階 全員協議会室
- 出席委員 11名(4名欠席)
- 議事次第
 - 1 開会
 - 2 委嘱状交付
 - 3 市長挨拶
 - 4 会長及び副会長の選任について
 - 5 議題
 - (1) 男女共同参画計画策定までの経緯と本市の現状等について
〈説明資料①、②、③〉
 - (2) 市民・事業所アンケートの結果について
愛媛大学社会共創学部産業マネジメント学科 曾我亘由 教授
 - (3) その他
 - 6 閉会

1～3 省略

4 会長及び副会長の選任について

事務局説明

事務局より、会長、副会長の選任について説明。

事務局提案により、会長に郡司島委員、副会長に白石委員を選任。

5 議題

(1) 男女共同参画計画策定までの経緯と本市の現状等について

事務局説明

事務局より、一括して説明

説明資料①

- 国、県及び市の男女共同参画の動き
- 男女共同参画社会基本法の説明
- 計画策定の目的
- 男女共同参画計画策定体制

○男女共同参画計画策定スケジュール

説明資料②

○人口、世帯数推移

○人口・世帯数の伸び率

○年齢別人口構成比

○年齢別人口 人口ピラミッド

○世帯構成

○婚姻件数と離婚件数

○年齢別未婚率等の状況

○男性・女性未婚率の推移

○年齢別就業率

説明資料③

○次期計画施策体系図（案）

質疑・意見内容

（委員） 八幡浜市の状況、世帯構成が緩やかに下がっているところが大変印象深かったのですが、人口世帯数の伸び率の資料で、世帯の増減と比較して人口の下がり幅のきつさというか、世帯構成員が緩やかに下がっていることや、一人世帯が増えているという分析があります。

総合して子どもを増やしていけるのか、労働世帯を確保していくことができるのかという意味で、若い世代とか、M字で下りる世代、戻ってきた時に何が障害になるのか、働ける女性とどうやって子育てを両立させていくかということをもう少しリサーチするところから始めた方が、八幡浜市のためにもなるのかなと思います。

（会長） 若い世代に来ていただいて、働いていけるという環境をどう作っていくかという大切な話だったと思います。

（委員） これからは、若い方たちは、皆さん共働きが当たり前で、子育ても環境によって皆さん頑張っておられるので、何か地域としても手伝いができたらいいなあと。実際に公民館で仕事をさせていただいて、若い方達の子育て、それから小学生とかの環境とかそういうのを、地域として支えら

れる環境ができればと思います。

(会長) 公民館活動をされていて、女性が活躍しているなど思うようなことがもしあればお聞きしたいなど。

(委員) 市内の17の公民館の主事さんも女性が大幅増えてきたと言われて、周りを見ると、確かに大きな公民館の主事さんを女性がされています。細かなところで女性の意見も少しずつ取り入れられてきているのかな、地域との密着もできてくるのかなというところで、これからかなという感じですね。

(会長) 地域社会を頼りにするというのは、こういう中小都市においては大事なと思います。公民館で活躍されている女性がいるということは、次の人も地域の中で自分が活躍できるかもしれないという、いいロールモデルになっていくのではないかと。地域に根差した制度をつくっていくことが大切かなと思います。

(委員) 子どもが幼稚園の時に体験したことなのですが、何か予定があって子どもを預けたいと思っても、預ける場所がなかったんですね。少ししてから、2つの保育所が一時預かりをしますという形になったのですが、定員が4名ですと言われたので、すごい先の予定を入れようとする、いっぱいでしたとなって、結局預けられなかった。お仕事をされている方だと、子どもが具合が悪い時どうするんだろうなと思ったんですね。

関東の友達に聞いたら、病児医療、日赤に預けたらと言われたのですが、ここにはそういった施設はないんですね。仕事をしていたら、子どもが何かあった時に預けられない、有休が少ない人とか、旦那さんが仕事を休めない方、奥さんいっぱい休まないといけないなあと思ったので、まず参画するための基盤がどうなっているのかなと。

(会長) 支援する部分、必要なところがどうなっているか、もし足りないのであれば、そこを整備していくという方向性も必要なのかなと思います。

(委員) 結婚を機に妻が退職しまして、今、一緒にみかんを作ってもらっているわけですが、家は3世代共働きで、みんなで山をしています。1次産業であれば、家に働く場所がありますが、外に出ていった時に勤めづらくなるのかなというのがあって、そういうところを感じております。

(会長) 1次産業で活躍されている女性の方はいらっしゃいますか？

(委員) 活躍にもいろいろある。家庭内で活躍しているということでしょうか？

(副会長) 農家の主婦の場合、農家で働くということは共働きと一緒にですね。それをしながらボランティア活動とか地域のいろいろな行事に参加して出ていく、そういう時の家族のあり方が一番大事になってくるのではないかと思います。

(副会長) 地域の人たちとか家族の人たちとか、こういうのがいけなかったらこうしていったらいいのではということをお優しく伝えていけるような地域づくりが、まずいるのではないかと考えているのですが。子育てもそうですけど、企業もそうです。共に働いて、共に生きる社会をつくるためには、働くところの社長さんなり指導者の方とか、子育てしてでも働ける体制づくりも考えていただいてもらわなければいけないのかなと。

(会長) 農家にお嫁さんに行くということは、就職するみたいな形ですね。農家に限らないが、その人自身が、それだけではない、ちゃんと生活というものを、地域の中で作って行って、そこで力を発揮できるのであれば、それを応援してあげることが家庭の中でも必要だし、地域社会の中でも必要なんだろうなあと思います。

こうだからこうしなくてはいけない、せねばならないというところに縛られないような感覚というもの、意識をつくっていかねばいけないのかなと思います。

(委員) 共働きしている夫婦は多いですし、共働きして色々な人が社会に関わっていくというのが理想の社会なんだろうなと思う一方で、各家庭で考え方が違うので、家庭に残りたいという女性は残るという選択肢を堂々と選んでいけることも一つの道だろうし、活躍したいという方は思い切り活躍できるのも社会だと思います。

成長期の時代は、稼げば稼ぐだけ当然稼ぎは増えていくということで、社会に出ていけば、豊かになり家を買って、車を買って、子どもにいい服を着せてというようなロールモデルがでたと思うのですが、僕たちの世代はどちらかというと、そういう経済成長が見込めない中で、どうやって働いていこうかということ、そんなに無理をしない働き方をしたいというのがすごく多いです。別に稼ぎはこのままでいいので、残業がない会社がいい、有休がいっぱい使えるけど残業をいっぱいしないといけない会社よりは、残業が0時間で有休が使えない会社がいいとか、僕らの世代の働き方に対する考え方でいうと、働きやすい会社に入りたいというのが。

地域としてどう男女共同参画を考えていかなければいけないかということ、民間企業が地域の若い方に働いてもらいやすいとか、この会社はいい会社だと思ってもらえるようなところをやっていくということと、潜在的に女性が働きたいというニーズは結構あるのかなというのは思っています。

幼稚園に預けている方でも、いい仕事があったら働いてもいいかなとか、幼稚園から小学校に上がると少し時間ができるので、働いていきたい、ただそこで受け皿となるような求人もないのかなと。

コマのような2時間、3時間の仕事をしたいという女性が感覚的に多いのではないかなと思うが、そういった受け皿がないということで、一番手取り早いのが市の方で2時間とか3時間とか働きたい人をざっくり雇ってみるとか実験的にやってみるとか。

(会長) 若い世代、これから就職するという大学生に話を聞くことが多いのですが、言われたとおり、今、育休を取りたい方は非常に多いし、家庭というものを大切にしたいという学生は男女ともに多いです。その時に、どうい

う魅力的な働き方を提案できるかで、そこに行こうというモチベーションに繋がると思うので、それを売り出すというのはチャンスなのではないかなと思います。なので、先ほどいい提案をされていましたが、試しにやってみる、みんなが尻込みしているのであれば試しにやってみるというようなことを行政としてやってみるというのもいいのかなと思いました。

(委員) 男女共同して子育て含めて、いい社会にもっていった時に、商工業者として何が重要かと言うと、男女が共同で働いて、やめずに仕事をしていただくのが一番基本になるので、育休を含めた女性が働きやすい形になっていければ理想かなと。

人口が減ってきていますので、雇用の人数を確保できないという状況が八幡浜市にあると認識しています。年齢別の就業率をみても、30代、子育ての世代、ぐっと就業率が落ちて上がっていくということは、理想の共同参画の社会から言うと、子育ての時でも、育休は取りながらも、済んだあと1年後には会社に復帰していただく、そういう制度をきっちりかえていかないと、10%落ちていくところは補完できない。経営者と働く人が、そういう意識で対応していかないと乗り切れないのではないかなと。

八幡浜市は人口が減ってきていまして雇用が難しい地域です。人口が多いところはそれなりに雇用ができるのですよ、募集をすれば。ここはお金では解決できない問題が結構ありまして、我々も認識して商工業者の団体として、雇用のことについて議論をしていきたいと思いますので、経営者や働く人が共同参画社会にもっていくための意識改革を図っていかねばいけない、行政としてもそれなりに提案していただきたいし、雇用の関係の諸団体もそれなりに提案してもらっているのですが。

例えば、少人数のところで育休はどうかとか、有休をとらせてくださいと言った時に、人がいないのでなかなか簡単にはいかないけれど、それを乗り越えていかないとこの問題は解決しないのではないですか。ですから、そういう意識改革を図っていただくような。

ここは協議会で議論する場ですから、あと市の方から市民や企業にどうPRして意識を図っていただくか、こういう機会ですので是非取り組んでいただくと、我々の商工会議所の立場からいうとありがたいかなと思います。

すので、この会を発展していただいて、いい会になっていただくようにひっばっていただければと思います。

(会長) 地元の企業が活性化しないと八幡浜市全体も活性化していかないので、経営者の方がこれからどう考えて、女性活躍の中で雇用を確保していこうということに繋がるのか、全体で意識改革をしていくことが大事なのかなと、それこそアピールできる形をとっていければいいのかなと思います。

(委員) 教育の方から見た男女共同参画、意識の変革といった感想を言わせていただきたらと思います。教員の世界が1番男女共同参画が進んでいる現場だと思っております。といいますのは、男女の差別なく、お給料も同じですし、育休、有休といった制度も整っております。そういった意味ではやりやすい職場というのでしょうか、女の先生も男の先生も力を発揮していただいていると思います。ただ、管理職登用になりましたら、どうしても女の先生は、家庭がありますとか、先ほど言われた引っ込み思案と言いますか、遠慮されるといいますか、なかなか力を持った女性の先生が管理職にならない、なれないのではなくてならない、そういうところに何か問題があるのかなと感じておりますけれども、非常に男女共同の方は進んでいるのかなと思っております。

児童生徒の方の意識改革と言いますか、学校現場も工夫をしております、特に問題になるのが刷り込みという状況だと思うのです。男の人が先で女の人が後、例えば、小さなことですが名簿の問題がありまして、今は大分通常になっておりますが、私どもが最後の校長をしていた時に、小学校の方で男女一緒の名簿を作ろうと、中学校でもそういったものを作ろうといった動きがありました。なぜかという、出席番号があいうえお順に昔はなっていたのですが、運動会や体育の時などはそっちの方が便利なわけです。そういうわけで男女別の名簿だったのですが、その後、男女混合の名簿にかわりつつあります。高校もそういった方向になってきています。一番戸惑ったのは教員であり、そして保護者であった。それは刷り込みです。男が先、女が後という刷り込みが非常に長い間続いていたのが変革をおこしているのです。今は学んで社会に出ていく女性も男性も、女性は女

性だから後とか、後ろに引っ込んでというのは随分かわっていくのではないかなと思っております。そんな形で学校も少しずつ実態に応じた男女共同参画の制度が浸透しつつあると思っています。

(会長) 非常に心強いお言葉だったのかなと思います。それこそ、これからの次世代の人たちなので、そこから意識改革がおこることで、その親世代にも、そこもかわっていけるのではないかなと思います。

(委員) 市の方としても人口減少に歯止めということでU I Jターンを進めているところであります。ただ、U I Jターンの中で、どういう生活が地方に行けば待っているのかということをしてPRすることが大切でありまして、その中で、今の労働力人口の減少といいますか、今後考えられる状況を見ると、女性活躍というところが必要かと。そういうところで、そういうものを家庭のモデルとしてPRできればU I Jターンも少しは進むのではないのでしょうかと話をさせていただいているところです。

先ほど委員さんの中にもありましたけれど、病気の子どもさんがいた時には、お姑さんとか他の方々にということなのですが、ご主人にという話が出てこないんですね。ということは、従来からの男性中心型の労働慣行というものが地方にいけばいくほど、そういうところがあるということでございます。

今、働き改革が進められていて、先ほどお話があったように、私たちはモノが欲しいわけではない、生活をゆとりあるものとして家族が有意義に生活したい、そういったことがまさに働き改革というものではないかなというところです。そうすると、男性自身がどういう意識改革をしていかなければいけないか、いわゆる男性の働き方を各企業さんにもご理解いただいて休暇取得、男性にもある育児休業についての取得促進、そういったところもしていかななくてはいけないのかなと思っていまして、今後10年間を決める基本計画の中で、男性の意識改革、男性に対する、男性が家庭を振り返る、そういうふうな計画を立てていかなくちゃいけない時代ではないだろうか、女性ばかりが頑張れということではなくて、周りから援助していくことも必要だと思っております。

もちろん、先ほどありました受け皿というところの分で、多様なニーズに応えるための雇用管理改善という、求人ですね、我々行政としていろいろなところにPRしていきたいと思っているところでございまして、そのあたりもご検討いただければと思っております。

(会長) 男性も家事育児といったところに関わっていく、男性の方に意識改革というのがいけばいいのかなと思います。

(委員) 一時保育の中でその子がアレルギーを持っていると、いざその子を預けようと、この日に預けたいなと思った時に、アレルギーの食材が入っていて預けれなかったという話を聞いたことがあって。松山ぐらいの都市になるといろいろ選択肢があって、私立の施設でも一時預かりをしていただけたらとか、そういう選択肢があると思うのですが、八幡浜の場合は2カ所の園の中で、定員に収まれば預かっていただける、ましてはその子にアレルギーがあって、その日の給食がアレルギー除去食でなければ預かっていただけないという、いろいろな面でネックになる、地方になればなるほど出てくるのだろうなと思います。

今回、女性防災会議が開催されるということで非常に市として考えていただいて、過去の阪神淡路大震災も含め、東北の地震、この前の熊本の地震も含めですけど、災害本部が立ち上がってもほとんどが男性の方で、女性が相談しに行く、中心になってくださる方がいらっしゃらないことから、ジレンマというか、災害が起こっても女性が自分らしい生活を送れないというのが現状ということで、防災の面でも男女共同参画が叫ばれておりますので、今後、防災会議を発足して、何か八幡浜にあった時の体制づくりも大切なのかなと思いました。

私たちの時代は何時間かのパートが当たり前の選択肢で、フルに働くとかそういう環境の考え方もなかった時代ですから、今考えれば、今働きたいと思っている女性の方が働ける環境づくりというのが1番大事なことでありますし、ただお金のことだけではないというのも一つありますし、でもあるところではお金のために働かなくてはいけないという女性もいるでしょうから。

でも実際に働きたいと思った時に、子どもが突然病気になった時に預けるところがないとか、どうしても女性がそういう部分で犠牲になるというか、子どもを1番に考えると、どうしても仕事が2番目になってしまう。八幡浜市においてそういう環境が充分整っているかと言われれば、まだまだこれから。今後は病児病後児保育も考えていただけるということを聞いておりますが、それが1カ月先、2カ月先というわけではないと思いますので、まずはそういう環境づくりをしっかりと。

現実に八幡浜に住んでいる子どもを女性が産み育てる、もう1人産みたいなという環境づくりをしっかりと1日でも早く整備することが喫緊の課題かなと思っております。

(会長) これが計画だけで終わらないように、いい施策に繋がっていくように、改革につながっていけばいいかなと思っております。

(2) 市民・事業所アンケートの結果について

愛媛大学社会共創学部曾我教授より、市民及び市内事業所を対象にしたアンケート調査の結果について報告。

質疑・意見内容

(委員) すごくいい取組なので、市の方向性とかですね、市民への告知をしっかりと取り組んでいただいたらとありがたいと思います。誰が発言したかと言うことではなくて、こういった社会、男女共同参画についてどう進んでいて、どう取り組んでいるとか、どういう方向性になっているとか。

(副市長) 3月31日に向けてこの委員会を立ち上げておりますので、その意味では、市の広報で、もちろできた時にはこのようなものができたと発信します。それ以外の場面でもこのような意見がでましたと、当然、市のホームページに趣旨の形でホームページに公開していきます。意見も寄せられることもありますので、できるだけPRしていきたいと思っております。

(副会長) 私たち女性団体もこういう会にでましたら、こういう話がありました

よと女性団体の役員さんにお伝えしますが、その後、下に浸透するのが難しい。ですから口コミに、女性は口コミが上手ですから。今日の皆さんがお聞きになられたことを、帰られましたら広めていただけたらと思います。

(会長) 皆さんにもお願いしますということだと思いますけれど、それぞれにこういうことをしていますということを伝えていただければと思います。せっかく、市民アンケート、事業所アンケートを素晴らしくまとめてくださっておりますが時間がなくてしっかりご説明いただけなかったと思いますが、第2回の時に皆さんにしっかり見ていただきまして、実際に案ができて検討していく中で、市民や事業所がこういう意識を持っているところも踏まえていただければと思います。

(3) その他

次回会議の日程調整については、事務局より改めて実施することになった。

(会長) 閉会とする。